

古典教科書の原点を 目指して

—教室で使う本としてのあり方



細谷敦仁

(三省堂国語教科書編集委員)

「教科書で」教える

国語の教科書は、他教科のそれとは違う。多様な文章が羅列されているだけで、その読解方法が解説されているわけでもなければ、練習問題による反復・応用が豊富にあるわけでもない。それゆえに、我々教師の責任は重い。教材を読み込み、年間の流れを見据えて授業のねらいを明確化し、それを的確に生徒に伝える必要がある。文字通り、「教科書を」ではなく「教科書で」教えなければならぬ。

古典の授業は、とかく文法事項や語彙の解説に陥りやすい。だが、「今」を生きた生徒たちには、それらを学ぶこと自体に意義を見いだすことは困難である。文法や語彙は、あくまで古典教材を読み解く基礎的な道具である。彼らと共に教科書を開き、さまざまな作品に向き合う目的の一つは、そこにある「過去」を通して「今」と「未来」を認識することにある。

高校生のうちに触れておきたい基礎的な作品、それを思索の入り口としてもらえる作品を多く収めたい。同時に、教室の実態をふまえて、教師が授業を組み立てやすく、現実的な生徒の進路を開いていけるような教科書にしたい。このような思いから、今回の改訂作業を進めた。

改訂のポイント

まず、目次を眺めていただきたい。一見してこれまでのものと大きく異なる点は、全体を二部に分けたことである。多くの学校で、三年になると古典は選択授業になる。進路の方向にかかわらず、全生徒に読んでほしい作品を第I部に集め、文系の進路を志望して三年でも古典を学ぶ生徒を念頭に置いて、第II部

を構成した。それに伴い、物語の採録教材数を増やした。『国語総合』からの発展教材として、第I部に『竹取物語』と『伊勢物語』を新たに加えた。また、『源氏物語』は第I部にはもちろんのこと、第II部にも採録し、「幻」を加えることで、紫の上の死後、残された源氏の思いを示した。また、『枕草子』も二部に分け、章段を増補した。第I部では『方丈記』を、第II部では『徒然草』をこれと並べ、いわゆる三大随筆を網羅した。

採録教材数を増やすだけでなく、その配列にも工夫を加えた。これまでは冒頭の「説話」の次に「日記」を置いていたのだが、古文に苦手意識を持つ生徒が少なくないという現状をふまえ、比較的記述量が短い「随筆」と、すでに中学や一年の『国語総合』で触れてきている『竹取物語』『伊勢物語』を先に置いた。

今回の改訂における最大の特徴は、第II部に「評論」を立項したことである。三年でも古典を学ぶ生徒の多くは、おそらく進路決定に際して古典のテストに取り組む必要がある者であろう。高校生に読んでもらいたい定番の作品を並べると、それだけで相当量のものになってしまい、歌論や俳論などの入試における出題率の高さに対して、教科書にこの類の文章を

まとめて載せることは難しかった。だが、今回の改訂では、全体のバランスを保ちつつ、うまく「評論」を立項することができたと考えている。第一部で和歌と並べて「古今和歌集仮名序」を載せ、第二部の「評論」への導入とした。歌論二作品と俳論に加え、能楽論・物語論と並ぶ「評論」は、生徒の現実的な進路を考えたとき、有意義なものとなってくれるだろう。

刺激的な教科書へ

古文の授業では、長い年月の中で高く評価されてきた作品に接する機会を保証しなければならぬ。そのため、うっかりすると我々教師がマンネリ化してしまいがちである。できれば毎時間、何かしら新しい発見につながるような刺激を生徒に与えたいと考えている。それには、まず教える側に教材との新鮮な関係がなければなるまい。今後、生徒に、そして教師に、少しでもよい刺激を与えられる教科書をさらに工夫していきたい。

ほそや あつひと 現在、東京都立八王子東高等学校教諭。教師生活十七年。生徒の知的好奇心をどうやって刺激するか、授業中にその頭をいかにやわらかく使い、イメージを広げてもらえるか、日々悪戦苦闘中。

高等学校古典—古文編

第I部

説話

安養の尼の小袖(古今著聞集)
老いを養ふ国(今昔物語集)

文字一つの返し(十訓抄)

枕草子(春はあけぼの／うつくしきもの／すさまじきもの／雪のいと高う降りたるを)

方丈記(ゆく河の流れ／養和の飢饉／日野山の閑居)

物語(一)

竹取物語(かぐや姫の昇天)
伊勢物語(月やあらぬ／梓弓)

○古文の音便

古事記(倭建の東征)

更科日記(あこがれ／源氏の五十余巻)

物語(二)

源氏物語(桐壺／若紫)

○注意すべき敬語の用法

大鏡(雲林院の菩提講／花山院の出家／肝試し)

和歌・俳諧

和歌十六首

古今和歌集仮名序

近世俳句

野ざらし紀行

北寿老仙をいたむ

上総の老女

第II部

物語(一)

大和物語(安積山)
堤中納言物語(虫めづる姫君)

随筆

枕草子(木の花は／中納言参り給ひて／二月つごもりごろに／五月ばかりなどに山里に歩く)

徒然草(さしたることなくて／世に語り伝ふること／世に従はん人は)

蜻蛉日記(うつろひたる菊／鷹)

和泉式部日記(夢よりもはかなき世の中を)

平家物語(俊寛／忠度の都落ち)

○現代に生きる古典①

源氏物語(須磨／御法／幻)

○現代に生きる古典②

毎月抄(心と詞)

正徹物語(亡き人恋ふる)

去来抄(行く春を／岩鼻や)

風姿花伝(年来稽古条々)

源氏物語玉の小櫛(物のあはれ)

西鶴諸国ばなし(大晦日は合はぬ算用)

雨月物語(浅茅が宿)

近世小説

芸能と表現

井筒

○現代に生きる古典③

○現代に生きる古典③